

日経平均株価

4万8625円88銭

▼1198円06銭(前日比)

TOPIX

3297.73

▼1.84(前日比)

## 株式市場新聞

www.marketpress.jp

2025  
11/24  
月曜日

発行元 株式会社 株式市場新聞社

〒541-0058

大阪市中央区南久宝寺町3丁目2-7

TEL 06-6105-1904

大規模セールで消費関連  
ブラックフライデーから年末商戦

ブラックフライデーから年末商戦が始まる

年末商戦の幕開けを告げるイベントとして定着。日本でも1月中旬頃からブラックフライデーを冠したセールを行う企業が増え、年末商戦へ向けてのイベントとして定着しつつある。特に来年へ向けてはミラノ・コレクションや冬のシーズンセールなどの企画が控えており、大画面TVなどの需要

は今年発売された新型ゲーム機「ニンテンドーSwitch 2」の発売も期待され、任天堂(7974)やソフトバンク(9432)が発売する力

米国では11月28日は早朝や深夜0時から開店する店も多く、買い物客が殺到して小売店が繁盛すること知られ、1年で最も売り上げを見込める日とされ、

年末商戦の幕開けを告げるイベントとして定着。日本でも1月中旬頃からブラックフライデーを冠したセールを行う企業が増え、年末商戦へ向けてのイベントとして定着しつつある。特に来年へ向けてはミラノ・コレクションや冬のシーズンセールなどの企画が控えており、大画面TVなどの需要

は今年発売された新型ゲーム機「ニンテンドーSwitch 2」の発売も期待され、任天堂(7974)やソフトバンク(9432)が発売する力

## 家電量販店やゲームなど

喚起が期待される。

米国で感謝祭(11月第4木曜日)の翌日に開催されるブラックフライデーを皮切りにクリスマス商戦が本格的にスタートし、消費の盛り上がりから株価も上昇し易いアノマリーがある。日本でもこの数年、ブラックフライデーが浸透しており、11月28日を前に大規模なセールを行う企業が増えている。東京市場では日経平均が最高値を更新する過程でAI・半導体銘柄ばかりに集中してきたが、大規模なセールを契機に純粋に消費関連に注目してもいいだろう。

日経平均の日足チャート

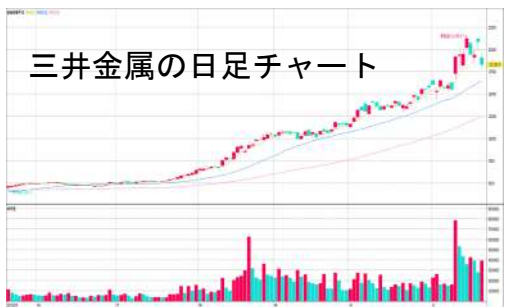


プコン(9697)、ゲームソフトはもとより玩具の販売増も期待されるバンダイナムコホールディングス(7832)も注目したい。ブラックフライデーセールを大々的に行う楽天グループ(4755)やグループでヤフーショッピングを展開するLINEヤフー(4689)、スーパー大手ではイオン(8267)も注目できよう。





三井金属の日足チャート



製品のカリ付極へ引き上げた。主要

(前年同期90円) 5円から110円 修正、期末配当を9 %増へ大幅に上方 80億円(同4・4 億円(前期比0・4 %増)へ、営業利益 7億6500万

## 三井金属が急伸

### 26年3月期大幅上方修正

三井金属 12日、(570)が急伸。26年3月期の業績予想について、連結売上高で7億6500万

13日、スター精(7718)がストップ高。同社は12日の取引終了後、米国のファンド、タイヨウ・パシフィック・パートナーズ(TPP)グループが同社株を公開買い付け(TOB)すると発表した。TOB価格2210円にサヤ寄せする動き。買い付け期間は13日から12月25日までで、完全子会社化による非

## スター精はTOBでS高

三井海洋開発(6269)がストップ高。25年12月期の業績予想について、連結売上収益で58億5500万円から6547億6400万円(前期比1・00万円(前期比1・1%減)へ、純利益で427億円から520億8300万円(同49・4%増)へ大幅に上方修正、期末配当を60円から80円(前年同期50円)へ引き上げた。浮体式海洋石油・ガス生産貯蔵積出設備(FPSO)の建造が順調、FPSOの稼働も総じて好調で金利収入の増加も踏まえた。

## 三井海洋ストップ高

公開化を目指す。ブイ・テクノロジ(7717)が急落。26年3月期の第2四半期累計決算は、連結営業損益3億7000万円の赤字(前年同期1億3600万円の赤字)と赤字が拡大した。FPD装置事業の受注金額は計画通りながら、前年同期に比べて減少している。

## Vテク赤字拡大

公開化を目指す。ブイ・テクノロジ(7717)が急落。26年3月期の第2四半期累計決算は、連結営業損益3億7000万円の赤字(前年同期1億3600万円の赤字)と赤字が拡大した。FPD装置事業の受注金額は計画通りながら、前年同期に比べて減少している。

## 個人投資向けIRセミナーin大阪



新田ぜうちん  
Connect and Create

(4977)

2026年2月14日(土) 参加費無料

株式評論家 高野恭壽氏の株式講演会



参加申し込みは「お問い合わせ」から!

主催: 株式市場新聞社 場所: 大阪産業創造館  
6階会議室(堺筋本町駅[出口1]徒歩3分)  
13時開場、13時30分開演

# エムスリーがS高

## 2Q 24%営業増益を好感

13日、エムスリー(2413)がストップ高。26年3月期の第2四半期累計(4~9月)決算は、連結営業利益で前年同期比24・2%増の359億9200万円となった。新型コロナウイルス関連プロジェクトの減少によるマイナス影響が縮小するなか、製薬マーケティング支援事業や医療現場のDX化支援などの事業が堅調に推移している。

週末14日、エムスリーホールディングス(2855)がストップ高。3月期の第2四半期累計決算は連結営業利益で前年同期比55・2%増の13000万円となった。平均販売単価下落や為替の影響などがでている。

## キオクシア55%減益

週末14日、キオクシアホールディングス(2855)がストップ高。3月期の第2四半期累計決算は連結営業利益で前年同期比55・2%増の13000万円となった。平均販売単価下落や為替の影響などがでている。

## 百貨店は中国訪日自粛

週明け三越伊勢丹ホールディングス(3099)やJ・フロントリテイリング(3086)、高島屋(8233)、エイチ・

ツー・オーリテイリング(8242)など百貨店株が総じて安い。中国政府が自国民に訪日の自粛や日本への留学を慎重

## 伊藤忠食親子上場解消

伊藤忠食品(2692)がストップ高。米アクティビストファンドのサファイアテラ・キャピタルが、非公開化による親子上場の解消を求める書簡を送付したと伝わった。伊藤忠商事(8001)がTOBを通じ親子上場を解消することが「最も合理的」と主張、TOB価格は13日終値を51%上回る1万4000円程度が適切だとしている。

## GMOPへ2割営業増益

GMOPペイメントゲートウェイ(3769)が急伸。26

## 11月第3週の動意銘柄

に検討するよう呼びかけたことを巡り、インバウンド関連売上り上げの減少を懸念した売りが広がった。

## Synsストップ高

Synspective(290A)が

ストップ高。ヒューリック(3003)を割当先とする第三者割当増資による新株発行と併せ、残存する新株予約権の全部を取得、消却すると発表したことがポイントで視された。

ダイレクトマーケティング(7354)が急反発。25年12月期の業績予想について、連結営業利益で18億円から21億円(前期比46・5%増)へ上方修正、期末一括配当を6円から7円(前期4円50銭)へ引き上げた。業務受託が順調に推移。

年9月期は連結営業利益で前期比20・1%増の376億9000万円を見込んだ。加盟店の開拓、案件の大型化や決済+αのソリューション

を提供する業種別にプラットフォーム、Baas支援、次世代決済プラットフォーム「ster」などの重点施策を進めていく。

## DMi-X増額増配

調達資金45億446万円は小型SAR衛星製造・打ち上げと設備投資資に充当。

## 日経平均、ナスダックに三羽鳥

先週の東京株式市場は反落しました。日経平均は3週連続の陰線形成。酒田五法では「三羽鳥」という天井形成サインです。これはナスダック総合指数も同様であり、4月以降、7カ月続いた上昇相場が曲がり角を迎えた可能性が高まっています。特にAI半導体関連銘柄はチャート形状が崩れてきており、これらの調整が本格化するようなら、高市トレード前の10月初旬レベルまで下落するのではないのでしょうか。日経平均では4万5000円前後です。

一方で、一握りの銘柄に過度に資金が集中してきた反動で、今まで物色の圏外に放置されてきた銘柄へのセクターローテーションが活発になるものと思われます。日経平均型からTOPIX型へと投資対象が広がることで、幅広い銘柄が物色の対象となりますので、押し目は積極的に仕込んでいきたい局面です。

日々勇太郎





英和  
(9857)

## 造船業界向けなど伸びる

26年3月期増収増益予想は不変

に遅れが生じている。販売面では、主に化学業界、鉄鋼業界での定期修

特殊車両は堅調持続

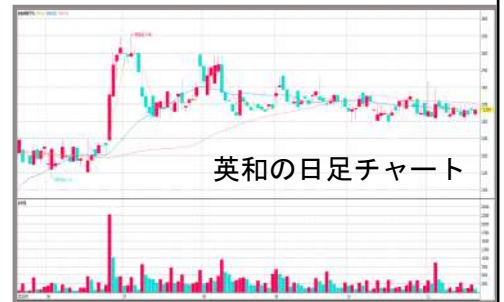
英和（9857）は工業用計測制御機器、環境計測・分析機器、測定・検査機器、産業機械の分野で、あらゆる産業のハイテク化に貢献する技術総合商社で、単に「物を売る商社」ではなく、「提案型セールスエンジニア企業」へと変貌している。

重点戦略である既存顧客への深耕開発と成長ビジネスへの注力を掲げ、デジタルトランスフォーメーション（DX）、グリーントランスフォーメーション（GX）、社会資本整備の3分野をテーマに、全国展開した営業拠点網を最大限に活用。

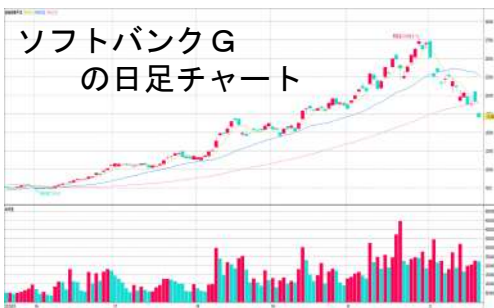
社会インフラ分野で活用される特殊車両や各種機器については、引き続き堅調に推移しているものの、トラックシャーシの出荷遅延や架装工程を伴う車両の長納期化により、一部の受注

理に伴うリプレイス需要や生産性向上を目的とするデジタル技術を活用した投資需要を取込んだ他、生産設備の高稼働状況を背景に造船業界向けの販売が増加し、26年3月期は第2四半期累計（4～9月）で連結売上高212億1700万円（前年同期比5.1%増）、営業利益11億4000万円（同4.9%増）と増収増益で着地した。

通期は連結売上高485億円（前期比2.9%増）、営業利益28億6000万円（同2.6%増）の従来予想を変えていない。



## 特選銘柄



## AI半導体関連値崩す

エヌビディア株が時間外下落

ソフトバンクG（9857）は、AI半導体関連株の急落を受け、18日午後、エヌビディア株が時間外下落した。ソフトバンクGは、AI半導体関連株の急落を受け、18日午後、エヌビディア株が時間外下落した。

ソフトバンクG（9857）は、AI半導体関連株の急落を受け、18日午後、エヌビディア株が時間外下落した。ソフトバンクGは、AI半導体関連株の急落を受け、18日午後、エヌビディア株が時間外下落した。

## 免疫生営業益2.1倍評価

免疫生営業益2.1倍評価。ソフトバンクG（9857）は、AI半導体関連株の急落を受け、18日午後、エヌビディア株が時間外下落した。ソフトバンクGは、AI半導体関連株の急落を受け、18日午後、エヌビディア株が時間外下落した。

アップコン上方修正。ソフトバンクG（9857）は、AI半導体関連株の急落を受け、18日午後、エヌビディア株が時間外下落した。ソフトバンクGは、AI半導体関連株の急落を受け、18日午後、エヌビディア株が時間外下落した。

## ニチコン大幅続伸

ニチコン大幅続伸。ソフトバンクG（9857）は、AI半導体関連株の急落を受け、18日午後、エヌビディア株が時間外下落した。ソフトバンクGは、AI半導体関連株の急落を受け、18日午後、エヌビディア株が時間外下落した。

日本精線  
(5659)

# 半導体関連業界向け回復 水素回収技術実用化へ取り組み進む

ルターはポリ  
エステルフィ  
ルム用  
途で前  
年同期  
に比べ

N A S c l e a n 増産へ

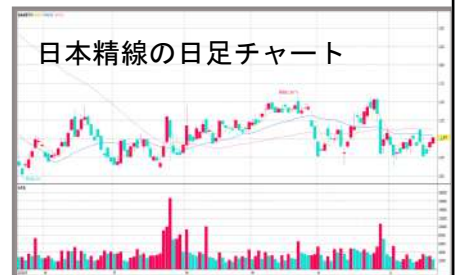
日本精線（5659）はステンレス鋼線のトップメーカーで、ナスロン（金属繊維）などの高機能製品や高合金ワイヤなどの独自製品を供給している。

26年3月期については第2四半期累計（4～9月）で連結売上高は224億7800万円（前年同期比3.8%減）、経常利益12億4200万円（同46.9%減）、純利益9億200万円（同43.9%減）と減収減益となったが、これはステンレス鋼線において中国での太陽光パネルの在庫調整の影響を受けていることなどが影響しているためで期初から想定している内容。

金属繊維（ナスロン）については、半導体関連業界向け超精密ガスフィルター（N A S c l e a n）は回復傾向となっており、ナスロンフィ

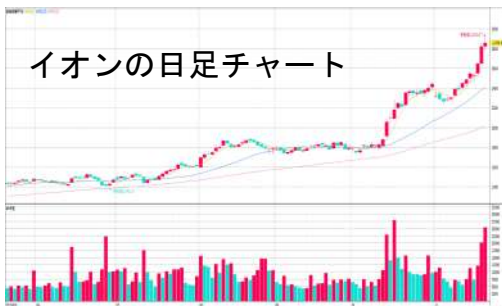
増加となり、通期は売上高435億円（前期比7.0%減）、経常利益32億円（同30.2%減）、純利益23億円（同29.2%減）と米国の関税政策による影響をも考慮し、期初予想からは変更はない。

超精密ガスフィルター（N A S c l e a n）については増産に向けた基盤整備を進めるなど、高機能・独自製品の拡販への取り組みを進めている。一方、水素回収技術の実用化に向けて回収水素の枚方工場内での利用を開始しており、次世代エネルギー分野での取り組みも注目されよう。



特選銘柄

イオンの日足チャート



ディフェンシブに資金向かう

イオン反発し最高値

19日、イオン（8267）が大幅反発、最高値を更新した。エヌビディアの決算発表を控えてAI・半導体関連が物色し、流通大手の同社株が感覚から物色された。物価高の中でPBに強みを有しており、今後も優位性が指摘されており、26年2月期も連結営業利益270万円の増と2ケタ増益を

## 損保大手明暗分ける

0万株の自社株買いを公表したが、3月期P/Oは26年3月期の業績予想を純利益で340億円（前年比240%増）と2ケタ増益を

東京電力ホールディングス（9501）が急落。「東京電力が再稼働をめざす柏崎刈羽原発で今年6月、テロ対策に関わる秘密文書の管理不備が複数見つかったことが」と伝わった。担当社員がテロ対策に関わる秘密文書を必要なく持ち出しコピー、自分の机に保管するなどしていた」としている。

東電HID秘密文書管理不備

Amaziaストップ高  
424）がストップ高。18日に25年

9月期の決算説明会文字起こしを公開し、戦略としてマンガBANGの読書数とアクザイブ率改善施策を、実施し、アプリ内決済の取り組みなどを表明しており、今後の成長が感心を集めたようだ。

ノースサンド(46A)が東証グロ  
ー市場に新規上場  
公開価格1120円  
を7%上回る120  
0円で初値をつけた  
総合コンサルティン  
グ事業を手掛ける。



## ～ 決算情報 ～

## ステムセル研究所

## 日本トリム

## 2Qも売上高は過去最高 26年3月期末から株主優待導入

ステムセル研究所（7096）の26年3月期第2四半期累計の連結決算は、売上高14億5000万円、営業利益1億3000万円になった。連結決算移行で前年同期との比較はないが、単体ベースではWEB広告最適化や産婦人科施設との連携強化で保管検体数が増え、売上高は引き続き四半期として過去最高を更新。ただ、シンガポール事業立ち上げへの先行投資や広告宣伝費、人件費などコスト負担が収益を圧迫、前年同期に株式売却益を計上していたことから大幅減益になった。

連結による影響は軽微で、通期は売上高30億円、営業利益4億5000万円と直近の個別予想と同額としている。また、26年3月末から1単元（100株）以上を保有する株主にデジタルギフト3000円分を贈呈する株主優待制度を導入する。

## 2Qは過去最高の売上高 整水器販路開拓進み電解水透析も貢献

日本トリム（6788）の26年3月期第2四半期累計の連結決算は、売上高124億600万円（前年同期比9.0%増）、営業利益15億6300万円（同15.8%減）、最終利益11億600万円（同15.2%減）で着地した。

先行投資などによる費用負担が収益を圧迫したが、整水器販売はスポーツや美容分野の販路開拓が進み、インドネシアのボトルウォーターや電解水透析、子会社のステムセル研究所の再生医療関連事業も貢献、代理店を通じた間接販売も回復しており、売上高は中間期として過去最高を更新した。

通期は売上高250億円（前期比11.3%増）、営業利益35億4000万円（同7.7%増）、最終利益23億円（同2.6%増）と従来予想を据え置いた。

## 大森屋

## 大和ハウス工業

## 3億7100万円の営業黒字 家庭用海苔収益改善し新製品に注力

大森屋（2917）の今26年9月期は連結売上高180億円（前期比9.0%増）、営業利益3億7100万円（前期6600万円の赤字）、純利益1億9600万円（同7300万円の赤字）と黒字転換する見込み。

25年9月期は営業損益で当初計画の6500万円黒字に対して6600万円の赤字となったが、これは主要原材料の原料海苔価格高騰によるコスト増および経費増によるもので、仕入価格は上昇し、電力料や燃料費、物流費も高騰したことから製造コストが増加しているようだ。一方、価格改定を行ったことにより、家庭用海苔の収益が改善しており、今後は生産活動の効率化やコスト削減を強力に推し進め、「バリバリ職人」や「サクサク職人」に続く新製品の開発に注力して利益浮上に取り組んでいく。

## 通期上方修正で配当引上げ 米国子会社で大型土地売却取引

大和ハウス工業（1925）は26年3月期通期の連結業績予想について、売上高は5兆6000億円（前期比3.0%増）を据え置いたが、営業利益を4700億円から5100億円（同6.6%減）へ上方修正、期末配当を95円から100円に引き上げ、年間配当を175円（前期150円）とした。

米国子会社で大型の土地売却取引があり、各セグメントの不動産売却スケジュールを見直したことで、利益が前回予想を上回る。配当性向35%以上とし業績に連動した還元を行う方針に沿って配当を引き上げた。

子会社化する住友電設との協業について「まずは半導体やデータセンターなどの分野でシナジーを引き出す方針で、研究開発、企画の段階から連携していく」（大友浩嗣社長）としている。



## ～決算情報～

## 新コスモス電機

2Q19%営業増益達成  
ガス警報機と検知警報器など好調

新コスモス電機（6824）の26年3月期の第2四半期（4～9月）は連結売上高246億3400万円（前年同期比21.9%増）、営業利益40億1800万円（同19.2%増）、純利益27億1600万円（同33.6%増）となった。

家庭用ガス警報器関連では北米向けの電池式メタン警報器と警報器用ガスセンサが引き続き好調に推移。工業用定置式ガス検知警報器関連では半導体業界向けガス検知警報器が低調に推移したものの、電力業界向けや化学業界向けガス検知警報器やメンテナンスサービスは好調に推移した。

通期は売上高480億円（前期比13.9%増）、営業利益56億円（同8.6%増）、純利益34億5000万円（同2.2%増）の従来予想を据え置いた。

## eWeLL

第3四半期45%営業増益  
BPaaSけん引し10%超の単価成長

eWeLL（5038）の25年12月期の第3四半期累計（1～9月）決算は売上高で24億7300万円（前年同期比33.0%増）、営業利益で11億9500万円（同45.2%増）と大幅な増収増益となった。

すべてのサービスにおいて単価が上昇し、引き続き前年同期比10%超の単価成長を実現。特にAI訪問看護計画・報告とBPaaSが単価成長をけん引している。

営業利益ベースで進捗率は80%ながら、通期は売上高33億4900万円（前期比30.3%増）、営業利益14億9400万円（同31.6%増）と従来予想を据え置いた。

これは「第4四半期で採用や研究開発などの投資を積極させる」（中野剛人社長）ため、攻めの経営から来期に向けてその効果が期待される。

## クオルテック

第1四半期営業益2.3倍  
微細加工伸び信頼性評価も堅調

クオルテック（9165）の26年6月期第1四半期の単体決算は、売上高9億8000万円（前年同期比9.0%増）、営業利益8200万円（同2.3倍）、最終利益5600万円（同2.8倍）と増収で利益が大幅に拡大した。レーザ加工の量産案件シフトと表面処理技術の受注キャパシティ増強により、微細加工事業が35%増と大幅に伸長、自動車電動化や消費電力削減ニーズを背景に主力の信頼性評価事業も堅調で、拡販体制強化や次世代半導体を中心とした研究開発など先行投資負担を増収効果で吸収した。

通期は米関税の影響を考慮して、売上高44億円（前期比9.3%増）、営業利益4億5000万円（同5.4%増）、最終利益2億7100万円（同23.4%増）と期初予想を据え置いた。期末一括配当は37円を継続。

## DmMiX

今12月期通期上方修正  
業務受託順調で47%営業増益へ

ダイレクトマーケティングミックス（7354）は25年12月期通期の連結業績予想について、売上収益を220億円から225億円（前期比7.4%増）、営業利益を18億円から21億円（同46.5%増）、最終利益を11億円から12億7500万円（同52.8%増）へ上方修正した。

マーケティング事業で既存顧客や新規クライアント向け業務受託が順調に推移、第3四半期累計の連結決算が売上収益170億230万円（前年同期比8.3%増）、営業利益16億7300万円（同41.9%増）、最終利益10億3500万円（同71.5%増）と増収大幅増益で着地したことに加え、固定費見直しにより収益性が改善する。

期末一括配当は7円（前期4円50銭）に増配の予定。

## 潮流

# 成長なくして財政再建なし

## 制約から解き放たれた日本経済

marKet / bAnk



これまで日本財政はプライマリーバランス（PB）黒字化という目標に縛られ、景気が低迷しても大胆な支出をためらう傾向が強かった。しかし、世界的にはアメリカも欧州もコロナ禍以降に財政出動を拡大し、成長を優先する政策に転換している。高市首相はこの流れを踏まえ、「日本も成長なくして財政再建なし」と明確に方向転換した。従来の「プライマリーバランス黒字化目標」に縛られた財政運営から一歩踏み出し、複数年度での評価へと方針転換を図った。

これは単年度の財政赤字を問題視せず、将来的な成長によって財政の健全性を確保するという発想だ。この変化は、経済政策の枠組みそのものを大きく変える可能性を持つ。財政の「縛り」が緩むことで、景気刺激のための大型投資や補助金、減税政策を柔軟に展開できる。中長期的に成長と税収増でバランスを取るという柔軟な考え方だ。この仕組みが本格的に機能すれば、日本は久しぶりに“攻めの財政”を展開できる国となる。

高市政権の政策発表をきっかけに、防衛・宇

宙関連、AI・半導体関連、電力・エネルギー・インフラ関連、地方再生・インフラDX関連株が上昇している。これらは単なるテーマ株ではなく、政府の長期戦略と直結する「国家成長銘柄」といえる。高市首相は「日本の潜在成長率を高める投資は支出ではなく、未来への先行投資」と繰り返し強調している。この発言に呼応するように、企業の設備投資や賃上げの動きも広がり始めており、実体経済と株式市場の双方で上向きの循環が形成されつつある。

短期的な株価上昇に留まらず、財政政策と産業政策が車の両輪となる「構造的上昇相場」が期待される。日本は“財政発の景気拡大局面”に突入しようとしている。高市政策は経済のポテンシャルを信じ、未来への投資を惜しまないという点で、戦後日本の経済史における転換点となるかもしれない。日本経済は長らくデフレと停滞に悩まされてきたが、ここに来て「財政主導のリフレ相場」が再び視界に入ってきた。

潮流銘柄はメディシノバ・インク（4875）、国際計測器（7722）、日立製作所（6501）。

岡山憲史氏（株式会社マーケットバンク代表取締役）のプロフィール

1999年2月日本初の資産運用コンテスト「第1回S1グランプリ」にて1万人超の参加者の中から優勝。2002年にNHK番組「経済最前線」にて独自の投資支援システムが紹介された。直近では2024年3月の夕刊フジ主催の「株・1グランプリ」で優勝。週刊現代、週刊ポスト、夕刊フジ、ネットマネー、月刊カレントなど幅広く執筆活動を行う。現在、個人投資家に投資情報サービスを行う。



岡山 憲史氏（株式会社マーケットバンク代表取締役）のプロフィール

# 支出ではなく先行投資

メディシノバの日足チャート





敏腕先物ディーラー

## ハチロクの裏話

ハチロクのプロフィール  
証券アナリストから証券会社の法人部長を経て、225先物オプションディーラーに転身。アナリスト時代に培ったテクニカルやファンダメンタルズなどの分析力を駆使、リーマンショックなどの暴落時も乗り越えて西日本における225先物オプションディーラーとしてはトップクラスの運用実績を誇る。

の法人部長を経て、225先物オプションディーラーに転身。アナリスト時代に培ったテクニカルやファンダメンタルズなどの分析力を駆使、リーマンショックなどの暴落時も乗り越えて西日本における225先物オプションディーラーとしてはトップクラスの運用実績を誇る。



エヌビディアは好決算だったが...

TOPIXの日足チャート



を起点とした  
2636円  
日の高値（5  
では11月4  
均のチャート  
重なる。日経平  
均のチャート  
のサインが  
必要になる。  
当面は上値の  
重い展開とな  
る。日経平均  
のチャート  
では11月4  
日の高値（5  
2636円）  
を起点とした

日本市場でAI関連株が急騰した。一時は約2000円高まで上昇したが、米国でのエヌビディアの取引が不発に終わると翌日には一転して約1600円安まで売られるなどジェットコースターのような展開であった。  
金曜日の日経平均は約1200円安であったが、ソフトバンク、東京エレクトロン、アドバ

迎えているというよう。海外投資家もAI関連株から内需株や中小型株にシフトしてきているようで、今後はTOPIX型優位の展開となる。だが、チャートではTOPIXで「アイランドリバーサル」を形成しており、底を打つには下値で「アイランドリバーサル」を形成するか、長い下髪を引いた後の窓を開けての上昇などのサインが必要になる。当面は上値の重い展開となる。日経平均のチャートでは11月4日の高値（52636円）を起点とした

## 当面は上値重い展開

エヌビディア株  
に翻弄される

ンテストの3銘柄で約1300円ほど日経平均を引き下げており、如何に影響力が強いかわかる。同日、TOPIXは8割近くの銘柄が上昇しており、日経平均だけを見ていると全体の相場観を見誤るので注意したい。

日経225先物日足チャート



右肩下がりの抵抗ラインで上値を抑えられている。現在は5万0350円処で25日移動平均線（5万0098円処）と近い位置にある。

また、下値はボリンジャーバンドの▼2σ（4万8423円処）が意識されている状態だが、抜けてくると▼3σ（4万7424円処）まで仕掛けてくる可能性もあるため注意したい。今週は日本が月曜日が休場である。米国の27日に感謝祭で休場になる。方向感に乏しい動きになると思われるが、弱材料に敏感になってきているので「突っ込み買いの戻り売り」に徹したい。

今週のレンジは4万7500円～5万円を想定する。

（ハチロク）



## 記者の視点 相場見通し

### 資金は内需優良シフト

#### イオンや大手ゼネコンは強い

11月第3週の東京市場はエヌビディアの決算で乱高下する動きとなった。

日本時間の20日7時前に発表されたエヌビディアの決算が市場予想を上回る内容だったことを受けて、20日の前場には5万2636円87銭まで駆け上がる場面があったが、その後は戻りに売りに押された。その後のニューヨーク市場も主要3指数が大幅高でスタートしたが、その後は急速に値を消してナスダックは2.15%の急落となり、週末21日は再び4万9000円を大きく割り込む動きになった。

米国では9月の雇用統計が予想以上に増加したことを受けて、FRB高官がインフレの高止まりを懸念し、追加利下げが実施されない懸念がニューヨーク市場での下落に拍車をかけた。エヌビディアの決算が無事に通過した安堵感が広がったところでの21日の急反落にAI・半導体の主力銘柄には失望感が広がったようだ。

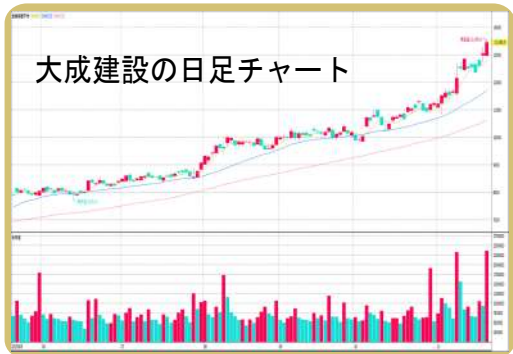
今週は24日が勤労感謝の日で週明けの取引は25日からとなる。225先物オプションは祝日取引が24日は実施されること、週明けのニューヨーク市場とともにその動きは要注目となる。25日の米11月CPI消費者信頼感指数や26日の米10月個人所得・個人支出・デフレーターなどの経済指標にも注視したい。

AI・半導体の主力が値を崩す一方、イオン(8267)が連日最高値となり、大成建設(1801)や大林組(1802)の大手ゼネコンやJR東日本(9020)なども高値更新している。この数カ月指数をけん引してきたAI・半導体の下落に目が行くが、業績が安定していて保有資産の高い内需の優良銘柄が買われており、資金がシフトしていることには留意したい。

母が亡くなった。点滴だけで命を長らえている状況が2カ月近く続いていたので、連絡があつて5分とかからず病室に駆け付けたが、すでに息はなかった。ただ、身体はまだ温かく、表情は穏やかで苦しんだ様子がなかったことに安心した。父が亡くなったのは10年前、その頃は思いもしなかったが、今は自身が終わる時までどう生きていくかを具体的に考えるようになった。まずは健康第一、できるだけ長く楽しんで仕事をしながら、多少なりとも貯えも残さなくてはならないだろう。

#### 編集後記

大成建設の日足チャート



### 当面のスケジュール

- ・24日 休場：東京市場 振替休日
- ・25日 10月全国百貨店売上高
- ・26日 10月企業向けサービス価格指数  
米10月個人所得・個人支出・デフレーター
- ・28日 10月失業率・有効求人倍率  
11月東京都都区消費者物価  
10月商業動態統計  
10月鉱工業生産  
ブラックフライデー(年末セール開始)
- ・30日 中国11月製造業PMI、中国11月非製造業PMI、中国11月コンポジットPMI
- ・1日 7-9月期法人企業統計  
中国11月Ratingdog製造業PMI  
米11月ISM製造業景況指数
- ・2日 11月マネタリーベース  
11月消費動向調査
- ・3日 米11月ADP雇用統計  
米11月ISM非製造業景況指数
- ・4日 米10月貿易収支
- ・5日 10月家計調査  
10月景気動向指数  
米11月雇用統計

【ご注意】株式市場新聞は投資の参考になる情報提供を目的としており、投資の勧誘をするものではありません。記事には業績や株価、出来事について今後の見通しを記述したものが含まれていますが、それらはあくまで予想であり、内容の正確性、信頼性、予測的的確性を保障するものではありません。当紙が掲載している情報に基づく投資で被られたいかなる損害について、当社と情報提供者は一切の責任を負いません。投資についての決定はすべてご自身の判断、責任でお願いいたします。